

東海地区 現代俳句協会 会報

第86号
令和8年3月31日
東海地区
現代俳句協会

和菓子歳時記

虎屋文庫主席研究員 中山圭子

I 四季と菓子 行事とともに

四季折々の和菓子。一年を通じて、また年中行事で様々なお菓子が作られています。特に上生菓子では、春は桜、夏はせせらぎ、秋は紅葉、冬は雪など、意匠が工夫されています。秋から始めて季節ごとにどのような菓子が作られているかご紹介しましょう。

秋（九月～十一月）には旬の栗を用いた栗羊羹、栗きんとんなどが人気ですが、モチーフでは菊月・紅葉が代表的です。

菊の節句とも呼ばれる重陽（九月九日）では「紫式部日記」にも見える「着綿^{きせわた}」の行事にちなむ菓子もあります。

お彼岸にはおはぎ。秋は秋の花にちなみ、おはぎ、春は牡丹の花に見立て、ぼた餅など、呼び名を変える場合もあります。

中秋の名月や十三夜には、月や薄、兎などの意匠の菓子が店頭に並びます。

亥猪（旧暦十月の亥の日）では亥の子

餅を用意。十一月の炉開きのお菓子としても知られますが、古くは宮中行事で使われたもので、「源氏物語」にも登場します。江戸幕府は家臣に配っており、熊本での全国菓子大博覧会では、天保五年（一八三四）に下された亥の子餅が展示され話題になりました。

秋から冬には落葉、初霜などの意匠も。小豆でははらと落ちる葉を表したり、生地にまぶした水餅を、雪や氷に見立てたり、風情があります。

冬（十二月～二月）。冬至を迎える頃には、柚子、柚子羹など、柚子を使った菓子がよく作られます。

お正月のお菓子といえは花びら餅。宮中の菱葩が原形で、裏千家の初釜で使われ広まりました。紅の菱餅と白い丸餅が陰と陽の合体、一つの世界観を表わします。宮中の歌会始のお題や干支にちなみ、虎屋では社員から菓子のデザインを募集し、入選作が商品化されます。

迎春の頃には霜紅梅や下萌など、春を

告げる意匠が好まれます。

三月三日は雛祭り。本来、穢れ払いの日で、香りの強い草餅を食べる風習がありました。菱餅は現在、紅・白・緑の色ですが、江戸時代は草餅を使うなど、白・緑の組み合わせが多いものでした。桜の季節は桜餅が代表ですが、咲き始めから満開になり、散っていくさままで姿が菓자에意匠化されます。

五月五日は端午の節句。粽は平安時代、柏餅は江戸時代から用意されました。六月十六日は和菓子の日。菓子を食べて招福除災を願う行事、嘉祥にちなみ、一九七九年に制定されました。

六月三十日は夏越の祓。小豆を沢山のせた三角形の「水無月」が京都を中心に作られています。

七月七日の七夕には糸巻や星にちなんだお菓子、土用には土用餅があります。

II 和菓子のモチーフ例

季節感との結びつき、吉祥の意味、古典文化の影響などが関連しています。たとえば、植物では桜・梅・菊、動物では鶴・亀・千鳥、自然現象では雪・霞・雨、風景では山・浜辺、生活用品では簾・扇・色紙などがあげられます。

III 和菓子の歴史

原形は木の実、果物、餅類です。こうした古来の食物に、外来の食物が影響を与え、菓子は発展していきました。飛鳥～平安時代には中国から唐菓子がもたらされ、鎌倉～室町時代には饅頭や羊羹を代表に点心が伝来。室町末～江戸時代初期には、ポルトガルやスペインからカステラ、ボーロ、有平糖などが伝えられます。

す。江戸時代には、白砂糖を使った「上菓子」が京都で誕生しました。上菓子は、風流な銘、四季折々の風物をかたどった意匠に特徴があり、上層階級の贈答や儀式などに用いられました。名古屋市の蓬左文庫には、尾張徳川家御用菓子屋の見本帳があり、大名と菓子の関りがうかがえます。

また、街道には名物菓子が登場、江戸では大福、どら焼き、きんつばなど、今日見るような菓子が庶民に広まりました。

IV 五感で楽しむ

和菓子は五感の芸術ともいわれます。見た目の美しさは「視覚」、おいしさは「味覚」、植物性の素材の香りは「嗅覚」、触れたり、楊枝で切ったりしたときの「触覚」、そして菓銘を聞く「聴覚」では、想像力を使う楽しみがあります。

古典の世界とのつながりも。たとえば、紅の菱餅がきんとんのそぼろの配色では黄・緑で「新青柳」、白・青で「夕涼み」、黄・赤で「紅葉重ね」、白・茶で「深山の雪」など、菓銘がかわり、平安時代の貴族がたしなんだ装束の色合わせ「かさねの色」を思わせます。また菓銘は、俳句の季語を思わせるものも多いといえます。和菓子を楽しむことは、日本文化の再発見になるといえるでしょう。

村山恭子・記

☆講師略歴

東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。和菓子製造販売の株式会社虎屋の資料室、虎屋文庫の主席研究員。著書に「事典和菓子の世界 増補改訂版」など。

第二十一回現代俳句東海大会入選作品

令和七年十一月三十日(日)

☆大会賞
いわし雲ふるさとの駅素通りす

渡邊 淳子



渡邊淳子氏&大西健司会長と受賞
祝いに来訪の渡邊氏が「卵の会」
にて兄事した海程系の伊丹余一氏

秀逸

刈りたての草生きてゐる匂ひして

宮田登世恵

乱心といふ一途さや秋桜

伊藤 政美

買い替えしミシン軽やか小鳥来る

渡邊 淳子

カーテンの白さの中で夏を病む

上嶋 艶

どの道も花野にゆきて戻らざる

中村 正幸

どの顔も死ぬ気配なし生ビール

中村 誠一

夾竹桃いつも近くにある戦後

伊藤 政美

水つばい白桃そんな恋だった

伊藤 政美

夜店の指輪帰れば光り失いぬ

岩田 典子



秀逸受賞の各位と会場風景



佳作

新聞に載らない樺美智子の忌

松末 充裕

坂あれば白き花咲く長崎忌

橋本 輝久

深爪のじんじんとして終戦日

八木茂都子

全身の影たぐり寄せ秋の蛇

林 和琴

しばらくは一人であたいサンングラス

小津 由実

曼殊沙華あんなにあかく咲いたのに

宮田かつこ

蕎麦咲いていよいよ山が近くなる

横地かをる

メビウスの帯の途中のハンモック

きのえのき

ねこじやらし人間嫌ひかもしれず

上村えつみ

冷奴角の取れたる餓鬼大将

松末 充裕

曼殊沙華二夜つづけて母の夢

渡邊 淳子

握らざるちからで握る熟柿かな

中村 正幸

点滴のしづく数える夜長かな

水野 俊一

晩夏トノボ鉛筆散らばれり

今井 真子

祖父母の手父の手もあり盆踊

八木茂都子

水中花花より水の疲れをり

犬飼 孝昌

吾と猫と白湯のやうなる初笑ひ

きのえのき

鶏頭花女にもある義侠心

平賀 節代

変身をするまで昼寝してしまふ

岡本 千尋

びしやびしやの紙にちよう果を書く秋日

一燈園小学校 太田 慈

太刀魚の尾までは撮れてなかつたわ

名古屋高校 東野 礼豊

付き合つてないといふだけ糸のこ草

名古屋高校 東野 礼豊

まんぼうの壁にぶつかる厄日かな

名古屋高校 三輪 修平



佳作受賞の各位



★選者特選作品

中村 正幸 選

はつきりとみえるものありサンングラス

平賀 節代

伊藤 政美 選

泣くドラマ見て泣いてゐる夜長かな

坂中 徳子

永井江美子 選

傷つくを怖れぬ風の敗荷

大西 健司 選

太刀魚の尾までは撮れてなかつたわ

名古屋高校 東野 礼豊

武藤 紀子 選

新聞に載らない樺美智子の忌

松末 充裕

武馬久仁裕 選

坂あれば白き花咲く長崎忌

橋本 輝久

平賀 節代 選

いわし雲ふるさとの駅素通りす

渡邊 淳子

松末 充裕 選

水つばい白桃そんな恋だった

伊藤 政美

小津 由美 選

祖父母の手父の手もあり盆踊

八木茂都子

前野 砥水 選

まんぼうの壁にぶつかる厄日かな

名古屋高校 三輪 修平

松永みよこ 選

曼殊沙華二夜つづけて母の夢

渡邊 淳子

有本 仁政 選

メビウスの帯の途中のハンモック

きのえのき

亘 航希 選

少年にうつすらと髭天高し

宮地 瑛子

大西 誠一 選

万緑の真只中にある平和

角野 弘子

中村 誠一 選

メビウスの帯の途中のハンモック

きのえのき

東海地区現代俳句賞

長町 誠司 選
被爆者と言へぬ娘の婚の秋 加藤由紀子
ひらの浪子 選

福林 弘子 選 永井江美子
握らざるちからで握る熟柿かな 中村 正幸

八木茂都子 選
八月や日本に否といふ使命 清水登美子
森本 昭子 選
買い替えしミシン軽やか小鳥来る 渡邊 淳子

村山 恭子 選
アイスコーヒー非常ベル鳴りやまず 亙 航希

今井 真子 選
白きシャツたためば割れてしましう 大塚 恭子



◆現代俳句東海大会は、尾崎放哉が一時身を寄せた一燈園の小学生や、俳句甲子園で活躍する名古屋高校等から、全九百二十八句に及ぶ多彩な応募を受け開催されました。懇親会場を今回からウインクあいち南の、中華「月華」に変更し開催しました。尚、本年度は笹島ライブにて、全国大会として開催予定です。詳細は順次ご案内します。

「一般の部」

★大賞

「息づかひ」 瀬川 琴女

笑うツボわからぬ母の初笑
獅子舞や泣く子泣かぬ子なだめる子
臘月あぶくのあまき深海魚
足踏みのオルガンの呼吸復活祭
駅を出て鞆にかける春シヨール
若楓塾行く前のメロンパン
薬局のフアクス

ふあふあふあフリージア

母の日のどら焼届くまた届く
蛇軋む我の耳石が動くとき
リラの花レゴのお家は大家族
恐竜の化石の匂ひ夏至の山

大塚 恭子

直進禁止炎天のコンピナート
仙人掌や進路指導の狭き部屋
聴診器ぶら下げ院長の素足
小鳥来るサナトリウムの中庭に
早朝の弓道場や秋の声

本棚の「チツチとサリ」 風は秋

愛を聴く十一月のちんあなご

マフラーへ吐息をふたつ終電車

カート押す夫は何処へ年用意

☆せがわことじよ

昭和三十六年生まれ／三重県大台

町在住「いつき組・伊勢俳談会」

この度は身に余る賞を頂きありがとうございます。未だ夢の中にいる心地です。日常のひとコマを日々作句しています。が、今後は一層精進してまいります。

奨励賞

「記憶の底」 工藤 厚子

マスカラの深き紫秋祭り
秋の宵矛盾の淵を渡りけり
過去を抱くドン・キホーテの秋の雲
できること教えて脳の白き霧
遠き夢一途な人の二つ星
天高し我を信ずる時の来る
結び目の解けたままの秋の山
ささくれを覆うが如し秋の海
脳内のスローモーション冬隣

あの日から更新されぬまま秋思

嘘に余韻ロダンの頬の秋の雨
電球の明るく暗く神の留守
青髪の少女ぼつんと美術展
まだ明日のあり勤労感謝の日

十月のちのことばをまもりおり

白桃の僅かに残るリベンジ
あるがままそれでいいのよ木の実落つ
赤き髪揺らす女の秋の蝶

火の恋し記憶の底の生くる人

用意した台詞のままに蚯蚓鳴く

(くどうあつこ・「韻」)

佳作

「水の影」 鈴木 晴美

天井画の天女飛び出しさうな春
揚雲雀城山の空近くなる
耕せりつばの大きな帽子に替へ
啓蟄の地下道人の溢れある
春灯の紐引き今日を消しにけり
春の夢覚めれば誰も居なくなる

夏はじめ魚を過ぎゆく水の影
本堂の障子真白や蓮の花
滝落つる新しき風生まれ継ぎ
試飲して買はずじまひの新茶かな
夾竹桃人ひとりづつ影を持ち
芝居小屋ありし辺りやコスモス咲く
ひぐらしの声に囲まれ山暮るる

白桔梗母は本音を言はぬまま
古文書の流るる文字や秋灯下
秋耕の孤独に鳥の集まれり
枯野過ぐ電車の影に窓のなし
宿木をあをあをとして冬ぬくし
冬蝶を見てみて音の遠くなる
海の色明るくなりし春隣

(すずきはるみ・「菜の花」)

佳作

「疑心暗鬼」 竹内千賀子

羽繕ひする鳥のをり水温む
見送りの僧の草履に春の雪
桜咲く不似合な鳥来てをりぬ
花筏組まねば流れゆくばかり
蜷の道定まらぬまま生きてある
なめくじり何もせぬまま時間過ぐ
蟻の巣や覗いてみたし見えぬから
空蟬や諦めきれぬことあり
橋梁に監視カメラや夏燕
ソーダ水紙のストローざらつきぬ
揺れるだけ
寝てもらへるねこじやらし
榎櫃の実疑心暗鬼になつてある
柚子の實の己の棘に傷ついて
鬼の子の揺れて淋しさ紛らはす
枯芒吹かれ生き生きして来る
筆ペンの掠れて来り冬に入る
鈴鹿嶺の重たき青さ寒波来る

短日や手探りで鍵開けてをり
難解なパズルに夢中日脚伸ぶ
冬銀河覚悟は既にできてゐる
(たけうちちかこ・「菜の花」)

「五十歳以下の部」

★大賞

「扉の奥」 千葉みずほ

にわたりのふわりと夢想する風
過去という一花や夜の蘭の香
蜘蛛の糸途切れて風に滝の音
海となるまで母を呼ぶつばめの子
くちびるに野ばらの傷を古き恋
ひだまりを探す少年蟻地獄
層籠にスタバの人魚星月夜
奥底に声あおおと蛇と草
扉の奥の馬のまぼろし秋の晴
朝寒や犬のしずかな一軒家
どくだみの香りを歩く未開とは
転がって夜の空瓶のぞく月
欄干を永遠の蠟燭ひとつ
夕暮れの傾斜ゆるやか雪兎
灯台や砂丘のごとく鳥渡る
沈丁の香の片類に古都の径
海荒れてとおく金魚の眠たさよ
持ち帰る草の実といる独りかな
かきつばた二人がのこる帰り道
カフェラテの泡きえている秋の虹

☆ちばみずほ

昭和五十九年生まれ／神奈川県
横浜市在住・永井江美子に師事
小川双々子系同人「韻」

毎朝ひとつ季語を選んで味わうように
しています。古典を知るため今は山本
健吉「基本季語五百選」を毎朝読んで
います。無季の句もとても好きです。

奨励賞

「夜汽車」

水越 晴子

青き文字浮き出づるやう古日記
きらきらと土方の砂塵初仕事
耳洗つてくれし祖父と若湯入る
谷底へ向かふ瀬音の春近し
名をしらぬ鳥の一声春兆す
かげりから白んでゆきぬ春霞
名草の香吸ひこんでをり春の土手
梵刹を越ゆ背高泡立草
天よりも色づく野から夏の暮
はすかひの璧光るあふぎ鶏頭
鶉の贅血眼のままありにけり
芋虫のあはれやうやくとほざかり
書いてゐる鉛筆の香や秋灯
草の穂へしづくの垂るる先の先
一輛を恣にりんだう咲く
をさなこのやうにゆすれば木の実落つ
街路樹の灯のあらはなり冬隣
緑青のところどころの末枯るる
入門の歳時記重し冬の朝
夜汽車からイスタンプール隙間風
(みずこしはるこ・「菜の花・三重県俳句協会」)

奨励賞

「寺は秋」

亘 航希

消えゆける虹に指紋を残したし
後ろから犬の気配やゼラニウム
車座に加はる僧の夏帽子
ロッカー足りぬ夏雲を入れるには
草田男の墓に旅人蟬時雨
揚花火音は砕けて夜に馴染む
咲初めの友の面影てふダリヤ
国道を互ひにゆづる熱帯夜
夏果の声ひるがへる遊園地
虫の音の駅舎の灯し眩しけれ

秋天のそこひと思ふベンチかな
つくつくし人の去りても信号機
問答に答ふるあはひ寺は秋
稚児の列親を離るや爽やかに
秋の蠅はらはら袈裟に弾かるる
新涼や番傘閉づる影著き
僧であり友であるなり赤とんぼ
稚児同士拭ふ白粉曼殊沙華
眠りたる赤子御詠歌秋の雲
秋蝶の坂より町へ善の綱
(わたりこうき・「楽園・いつき組」)

奨励賞

「火傷」

紅紫あやめ

薔薇浮かぶ風呂や豊胸手術痕
身を売って身を買いにゆく夏の蝶
思春期や水着の紐を解く海
捨てられたエロ本を嗅ぐ溽暑かな
鬼灯が転がる酒に溺れてる
六面を乱反射する秋思かな
バラバラと肋骨折れて曼殊沙華
深海に魚雷は走る秋の虹
ブロンズのベンチの歪み文化の日
離婚後の受胎確定後の月
蠟燭へ火をオルガンへ風を
綿虫や雲に隠れる神の糞
人の手は魚を火傷させる冬
竹馬の跡を繋げば線となる
不戦勝なり底冷の表彰台
白皿に堂々と立つブロッコリ
ふらこを漕いで雲行き混ぜるよう
黄砂降る行方不明の万馬券
人骨をちりとりに入れ夕霞
似顔絵は間違えばかり春驟雨
(こうしあやめ・いつき組・雪華・南風・
なごやか句会)



◆令和七年度東海俳句賞選考経過

大賞の瀬川・千葉尚氏&奨励佳作受賞各位
事務局・松末 充裕

応募総数は五十歳以下の部門に四編、
一般部門に二十二編の作品が寄せられた。
前年の同六編・三十二編に比べてかなり
減っているのは淋しい限り。ただ本年度
については五十歳未満に意欲的な作品が
多く、選考委員を大いに悩ませる結果と
なったのは嬉しい誤算であった。
選考委員会は、令和七年十二月十一日
(木)ウイנקあいちに於いて開かれた。
委員は大西会長が委託した永井江美子氏、
武馬久仁裕氏、武藤紀子氏、平賀節代氏、
今井真子氏、有本仁政氏と会長の七名。
事前に作者名を伏せた応募句コピーを
選考委員へ郵送し予備選考を依頼した。
一般は予選順位一位から七位を、五十歳
以下は四編全部をランク付けし、一覽表
を事前に選考委員へ配布した。委員の選
考方法は其々異なるが、作品の各二十句
を○×△に仕分けし、全体の構成も考慮
して順位付けしている選者が多かった。
選考は一般の部から始め、予選の点数
の少ない順に全作品意見交換し、厳正に
審査した。応募句全体としては、毎年の
傾向だが、破綻のないまとまった作品が

多かった。逆に言えば類想感があるというところ。AI俳句の近未来が注目される中、類想との戦いは現代俳句にとつて永遠かつ大きな課題かもしれない。

選考の手順として、予選の評点が高かった上位七作品の中から五作品を残し、挙手で順位を決めることにした。結果予選二位であったが「若楓塾行く前のメロパン」などユーモアのある面白い句群の「息づかひ」を大賞とした。次にバラツキはあるものの「電球の明るく暗く神の留守」など他にはない個性的な表現の「記憶の底」を奨励賞に抜擢、予選一位であった「水の影」は、完成度は高いものの挑戦の句が欲しいというのが審査委員の一致した見方で佳作とした。同じく佳作の「疑心暗鬼」も実感のある俳句が多いが、まとまり過ぎて挑戦の句が欲しいとの評価であった。

五十歳以下の部は、予選得点が僅差であつたため議論が噴出。今年は少数精鋭意欲作が多いとの高評価であつた。最終的に「屑籠にスタバの人魚星月夜」など詩的比喻や飛躍のある「扉の奥」を大賞とし、残り三編もそれぞれの個性や表現に光るものがあつたので奨励賞とした。

選考委員一位の作品

一般の部

- 大西 健司「藍微塵」 前野 砥水
永井江美子「病窓徘徊」 笠井 保志
武馬久仁裕「息づかひ」 瀬川 琴女
武藤 紀子「雁渡る」 吉原とし子
平賀 節代「疑心暗鬼」 竹内千賀子
今井 真子「水の影」 鈴木 晴美
有本 仁政「水の影」 鈴木 晴美

五十歳以下の部

- 大西 健司「火傷」 紅紫あやめ
永井江美子「寺は秋」 亘 航希
武馬久仁裕「扉の奥」 千葉みずほ
武藤 紀子「夜汽車」 水越 晴子
平賀 節代「扉の奥」 千葉みずほ
今井 真子「夜汽車」 水越 晴子
有本 仁政「扉の奥」 千葉みずほ

第二十八回東海地区現代俳句賞募る

現代俳句界に新風を吹き込み、東海地区俳句活動の進展と充実を図るため、左の要領で作品を募集します。

応募作品 雑詠二十句（未発表に限る。受付後の作品変更は不可）

B4縦書（紙サイズ厳守）

四〇〇字詰原稿用紙二枚使用

一枚目 「題名」「郵便番号・住所・電話番号・俳号（氏名・年齢）」

二行置きに記載

二枚目 一行目から作品を並記し、二十行目までに二十句収める。

※応募無料。応募原稿は返却しない。

○応募資格 東海地区現代俳句協会員

○締め切り 令和八年十月三十一日（土）

○送稿先 〒46710004

名古屋市瑞穂区松月町1-11-209

松末充裕 方

東海地区現代俳句協会事務局 宛

「東海地区現代俳句賞」朱記のこと

TEL 090-4792-4684

メール matsusue@yahoo.co.jp

○年代別選考につき年齢記載必須です。

○顕彰・東海地区現代俳句大賞一名

賞状および賞金三万円

・奨励賞・佳作 若干名
賞状/副賞一万〜三千元
※定例総会席上にて授賞式

○入賞発表 顕彰後発行する会報紙上

○選考委員 会長が委嘱する地区役員

永年会員 自薦句（昭和二十二年生れ）

愛知県

換気扇全開稼働土用丑
昼食はいつもの鰻鮓雛祭り

豊橋市 村田 格一

薄墨の葉書き年の瀬走馬灯

西尾市 杉田愛次郎

初日の出まぶたに見えし夢の先

安城市 今井 真子

蝌蚪散りて水に残れるわが鼻よ

西尾市 松岡久美子

風花や旅の途中の一欠片

西尾市 堀田 菟集

見送りに交はず一言枯木星

西尾市 近藤 喜子

風光る祭り絆纏渦の中

豊橋市 大木 章也

うしろから影が過ぎ往く節分会

安城市 菅原 醉迷

岡崎市 田中 玲子

西尾市 堀田 菟集

岡崎市 近藤 喜子

岐阜県 岡崎市 真鍋倭文字

剥製のガラスの目玉鳥渡る

伐り倒すつもりであしが冬木に芽

岐阜市 真鍋倭文字

三重県 桑名市 竹内千賀子

母ひとり残して帰る三日かな
置き去りの昭和が納屋に麦の秋

伊勢市 平賀 節代

月を待つ蓮根に火が通るまで

四日市市 南川 泰子

冬うらら明日香の旅は石を見て

伊勢市 桜本 純子

度会郡 伊藤壽美子

新規会員 近詠句（令和七年入会者）

岬まで二千歩の道 水仙群

徒然に girl と書く母冬董

名古屋市 水野真佐子

萬博や夜をさまよふ虚のくぢら

何処からでも撃てよ

岡崎市 葉ざくら

祈る目を向け転がりぬ枯蠅螂

石路の花鮮やかなりし手水鉢

名古屋市 石原 豊子

蕊 秘めて鮮やかに終う冬薔薇

装いて微笑む母の夢始

西尾市 杉山三枝子

初場所の好取り組や鍋こげた

水仙やウクレレの音少しずれ

名古屋市 山内 充子

勝手知る猫春昼のボンネット

砂塵まうカイロ新品の白靴

弥富市 加藤 薫風

丸文字に四角い切手小鳥来る

黄葉や虫喰い穴はきつねの窓

岡崎市 大竹 直子

日進市 柊 琴乃

豊橋市 仁科 壮一

◆岐阜県

名古屋市 岡崎 舞
西尾市 桑山 幸江
豊田市 児玉 裕芳

年忌表書き写したる初曆
失言は予定通りと初日記

本巢市 北野 常然

サラダ記念日キャベツましまし愛も増し
揚花火いままらギョツとしてよし

大垣市 赤尾 双葉

不眠それから桃を騙るのをやめた
鞆のねじれふうの恋をする

郡上市 島田 砂光

◆三重県

子や孫も去りて二人の七日粥
いい人と云われ失恋クリスマス

津市 高橋 正雄

湯を沸かす蒼き炎や夜の寒し
冬満月邪魔するものは何も無い

伊勢市 濱口 淳子

空蟬の足に矜持をまだ残し
売られゆく牛の泪や晩夏光

度会郡 中村美千代

稲実る日焼けの爺の深き皺
園児らの裸足で挑む運動会

度会郡 八木 美喜

箒目に花屑残り大師堂
紋り跡程よく残し栗茶巾

松阪市 谷 和穂

初詣祈る横顔皆美し
ひらひらと老ゆるもよろし寒桜

伊勢市 小林 三保

選定の済んだ柿山駆け下りる
大寒や西の空には月の舟

伊勢市 上嶋恵ノ子

洗濯機何度も回す四日かな
橋杭の列なる巨石冬怒濤

度会郡 飯嶋八千代

雨情の忌歌えは故里なほ遠し
雪折れの水仙を切る音鈍し

四日市市 吉原とし子

第三十回東海地区現代俳句協会

新年俳句大会受賞作品

令和八年二月十五日(日)

☆会長賞

バス停まで父との時間息白し

安藤美佐江



大西健司 会長と
安藤美佐江 氏

秀逸賞

夢を買うように選びぬ冬の葎微

近藤 好子

隣席は詐欺話かもシクラメン

瀬川 琴女

絵手紙のなかの木枯し聴いている

横地かをる

優秀賞

予備校に靴の散らかる二日かな

秋山百合子

心臓は山の神へと猪捌く

加藤 美名

相容れぬ人と蜜柑を剥いてゐる
石川 裕子

多気郡 中野 美加
四日市市 伊丹 余一

※永年会員は数えて傘寿となる方々です
掲載句は到着順・未着は氏名のみ記載

たくさんの別れの手紙林檎剥く

堀内なづき

冬花火ピエロは縦のまなこ閉づ

つだ みき

寒椿そこから遠景である

伊藤 政美

葉牡丹の芯のあたりがもどかしき

川合いつ子

本籍を移して泡立草の中に住む

山口 正恵



秀逸&優秀賞と佳作各位

佳作

むつかしき話出てくるおでん鍋

水越 晴子

上り端に岡持がある女正月

浜西 修

紺青の宙の深さや掛大根
成木 幸彦
冬鳥や何か忘れてゆく不安
宮田かつこ

春炬燵有耶無耶といふ着地点

山内 基成

うすらひを踏んで地球の凹みけり

亘 航希

空つぼのカバンの匂ひ帰り花

石川 京沙

運いくつ拾ひ損ねて日向ぼこ

犬飼 孝昌

枯野から戻り詩人になつてゐる

小津 由実

切干やあと一日の風を待つ

小林 三保

里芋のままでもいいから眠らせて

原しよう子

呟きを拾い集めに大枯野

増井 康子

ひと筆の駿馬はみだす賀状かな

ひらの浪子

身のどこか疼き冬木の鎮まれり

林 英男

選者特選作品

中村 正幸 選

未知といふ豊かな余白去年今年

岩井 君代

伊藤 政美 選

本籍を移して泡立草の中に住む

山口 正恵

永井江美子 選

切干やあと一日の風を待つ

小林 三保

予備校に靴の散らかる二日かな

秋山百合子

武藤 紀子 選

バス停まで父との時間息白し

安藤美佐江

武馬久仁裕 選
ひと筆の駿馬はみだす賀状かな

ひらの浪子

平賀 節代 選

安藤美佐江

松末 充裕 選

きのえのき

細部の二十三対初山河

濱西 修

上り端に岡持がある女正月

石川 裕子

前野 砥水 選

平賀 節代

有本 仁政 選

橋本 輝久

骨壺のぬくみがふつと霜夜かな

奥山 和子

初明り赦す心をと戻す

鈴木 晴美

巨 航希 選

北野 常然

大西 誠一 選

鈴木 晴美

正論はいつも残酷冬満月

鈴木 晴美

中村 誠一 選

鈴木 晴美

八木茂都子 選
夢を買おうように選びぬ冬の薔薇

森本 昭子 選
近藤 好子

村山 恭子 選
つだ みき

今井 真子 選
有本 仁政

心臓は山の神へと猪捌く
加藤 美名

泣くな泣くな二月の石になりさうな



青年部活動の報告

■堀田季何氏参加の句会案内
四月度つばめ句会にて実施予定ですが、定員制のため青年部まで問合せ下さい。

■現俳全国大会名古屋開催にともない、ジャズ句会は全国大会時に同時開催となり、全句講評講座は中止となります。

■青年部を卒業した方で、まだ経験の浅い会員の勉強・交流を目的としています。が、青年部も含め広く参加を募っています。初心者や会員外もぜひ御連絡を。

ほぼ毎月一回、土曜の午後に名古屋の鶴舞近辺で句会を開催中にて、これまでに二十三回開催、毎回十数名(二十代〜八十代)が参加。新規の方も増えて活発に活動中。以下に優秀句を紹介します。

☆第二十回つばめ句会(スイーツ句会)
会ひたきは妻の十代まるめいら

有本 仁政

林檎飴扱いにくい女です

加藤 薫風

ブルースのやうなひと待つ十三夜

松末 充裕

乳と蜜たつぷり含む夜長かな

松永みよこ

☆第二十一回つばめ句会

有本 仁政

小春日の猫の口ひげ名はルパン

中村 誠一

筆あらふ色やはらかや冬日和

加塚 隆二

着膨れてモルックピンの弾けとぶ

太田 風子

☆第二十二回つばめ句会

山 びこ

小寒や生クリームはツンと立ち

山 びこ

アルバムは置いていきます冬の月

菊山 千月

初絵馬の若きベトナム研修生

山内 充子

一月の尖つていたる糸切歯

太田 風子

青年部活動の報告

六月二十日(土)に東山動物園吟行句会が開催されます。名古屋千種区にある東山動物園は三十二haの広大な敷地に五百種類の動物が飼育されています。ゴリラのシャバーニが全国的によく知られていますが、他にもゾウやコアラ、レッサーパンダなどの人気者が勢ぞろいしています。植物園には七千種類の植物が栽培され、なかでも「温室」は、現存する日本最古のもので国の重要文化財に指定されています。岐阜県白川から移築された合掌造りの家を見る事もできます。当日は、午前中に吟行(参加自由)、十三時から今池ガスビル(地下鉄東山線・桜通線「今池」10番出口直結)七F・サファイヤルームで句会を行います。午後からの参加でもかまいません。ご都合の良い方をお選び下さい。

東山動物園をいま一度新鮮な気持ちで吟行してみませんか。

■青年部所属の葉さくらさんの作品が「関西俳句バトル2026」で最優秀賞及び優秀句に選ばれました。

最優秀賞 巻物に雲のてざはり初比叡
優秀句 学童のさいごのひとり虫の声

先生はピアノも弾けて水仙花

■現在十一月二十九日(日)の現俳全国大会の運営スタッフを募集しています。様々な係がありますので少しでも協力いただけるという方はご連絡ください。

問合申込 東海地区現代俳句協会
青年部長 松永みよこ

問合申込 東海地区現代俳句協会
青年部長 松永みよこ

hi.tomas@wd.biglobe.ne.jp
090-4850-0264

tokai.genhai.seinibu@gmail.com
090-4549-9583

春日井市協賛／二月十九日吟行句会

今日の吟行地「うつゝ神社」創建は、大和武尊が東征の帰路に、此の地で義兄である建稲種命の死報を受け、「うつつかな、うつつかな」と嘆き悲しみ祀ったのが始まりなんです。権現造り社殿の彫刻や、夢想国師作庭と伝わる林泉回遊庭園も必見です。更に芭蕉を始め横井也有らの句碑が並ぶ「すみれ塚」もありました。参加三十名中の高点句を紹介します。出入口迷ふほどある駅は春

八木茂都子
すこみいる龍の目にある春の空
丹羽美智代

内々神社に北斗七星冴返る
加藤 薫風

待春や木のバサバサと水の音
石田奈津子

春浅し内々の森に水の音
立山 明美

おずおずと渡る木の橋余寒なほ
松田美奈子



☆開催予定(二・八・十月) 事前予告有
☆問合先／春日井市ウオーキング&俳句
プロジェクト実行委員会

メール obo@daigakuhaku.com
電話 052-951-3852 (土日祝除)

第十八回 鈴木しづ子顕彰会

小中高生いのちの俳句大会 全国大学生俳句選手権大会

■小中高生いのちの俳句大会表彰式

日時 九月五日(土) 午後1時より
会場 大山市民文化会館・大ホール
規定用紙又は原稿用紙
俳句三句、氏名、住所、電話
学校又は結社名、出席可否記載
未発表作、類似二重投句は取消

期間 七月十七日(金)までに送付
表彰 いのちの俳句大賞、大山市長賞
大山市関連各組織、中日新聞社
東海現代俳句協会賞、他多数

選者 東海現代俳句協会会長、他役員
送付 千四八四〇八九四
大山市大字羽黒字二日町57番
鈴木しづ子顕彰会事務局

■第九回全国大学生俳句選手権大会

日時 九月五日(土) 午後2〜5時
会場 大山市民文化会館・入場無料
期間 七月二十日までに送付
兼題 「音楽」又は自由題

問合 千四六〇〇〇〇一 名古屋市中区丸の内3-16-29 4階
全国大学生俳句選手権大会事務局

TEL 052-951-3852 / FAX 052-962-3256

メール obo@daigakuhaku.com



ライブ配信あり



津市一身田高田本山吟行句会のご案内

三重県初、建築物が国宝となった津市にある専修寺(せんじゅじ)は、浄土真宗十派のなかでも、三番目の大きさを誇つといわれる真宗高田派の本山寺院です。精巧な装飾や彫刻が施された御影堂と通天橋で結ばれた如来堂とともに国宝に指定されて、その威容には圧倒されます。山門、唐門、鐘楼などの重要文化財に指定された建造物が数多くあり、大迫力の国宝建築をまじかで体感して頂けます。寺と街並みを囲み環濠と呼ばれる濠が巡らされた一帯は、寺内町とよばれ昔ながらの商家も点在します。一身田名物を探しながら散策されるのもお勧めです。本山の境内には蓮の花の鉢が多数並べられ、花の時期には多くの人々が訪れます。今回の吟行では花には少し早いですが、会場横の古代蓮の池や、寺院前庭の鉢の数々をご覧いただけるかと、池には亀や鯉などもたくさんいて眺めているだけでも、楽しく句材としてもお勧めです。

■高田本山豆知識
■御影堂には快慶作の阿弥陀如来が安置されています。堂内には楽器や動物などいろいろな彫刻が施されています。
■華やかな堂内はお経に描かれている極楽浄土を忠実に再現しています。
■如来堂の外廊下のどこかに「ひようたんのしるしが隠されているそうなので、探してみるのも楽しそうです。
■寺内町の歴史や文化を知りたい方は、まず「一身田寺内町の館」へ行かれることをお勧めします。

日時 令和8年5月17日(日)
9時半〜16時(雨天決行)

場所 高田会館ホール

三重県津市一身田町2819
TEL 0591-2322-6079

■受付 9時半より
■投句締切 12時(時間厳守)
■当日囁目句 二句

■昼食終了後13時より句会開始

■昼食 昼食は寺内町内に複数と、高田会館内にもレストランがあります。

■交通 津駅8時59分 or 9時42分又は10時28分発のJR紀勢線の亀山方面乗車三分(本数が少なくカード不可)注意)一駅目「一身田」高田会館は徒歩5分/駐車場有

※近鉄「高田本山」と伊勢鉄道「東一身田」は遠いので避けて下さい。

■問合 参加連絡は事務局長の松末充裕へ、四月末日までお願いします。

TEL 0901-4792-4684
メール miata.tsusue@yahoo.co.jp



第63回 現代俳句全国大会 in 名古屋

作品募集



投句締切は

7月31日(必着)

本年度の現代俳句東海大会は現代俳句全国大会として、東京本部と共催にて名古屋で開催されます。コロナ禍のときに名古屋開催が企画されましたが、残念ながら郵送に於ける大会となりリアル開催が叶いませんでした。東海地区現代俳句協会の力を示す好機です。ご協力の程宜しく願います。

□応募規定

①三句一組・二千円 何組でも可。但し新作未発表作品に限る。
 ②前書き・ルビ不可。本会報に同封した所定の投句用紙、又はQRコードからWEBで投句して下さい。

投句料は普通為替、定額小為替(無記名)、現金書留(作品同封)、郵便払込(青い払込取扱票使用)のいずれか。

※郵便振込 加入者名・中村誠一

振込口座番号・008504156366

※受領証のコピーを投句用紙に添付のこと。

□送付先

〒446-0061

愛知県安城市新田町小山三十一-二十

中村誠一 方 / 現代俳句全国大会作品係

TEL 090-2226513478

□締切

7月31日(金) 必着

□顕彰

協会会員誌『現代俳句』他に発表。

□表彰

大会賞、会長賞、後援新聞社賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作。

□全参加者に入選作品集贈呈

□全国大会

令和8年11月29日(日) 午後一時より

「名古屋コンベンションホール」

〒453-6202

名古屋市中村区平池町4-60-12 グローバルゲート内

JR名古屋駅新幹線口を出て南へ「あおなみ線」で一駅の

「ささしまライブ駅」下車徒歩二分

井上淳一氏 / 仮題「映画と俳句」

鈴木しづ子の映画を構想中。

□懇親会

午後5時より(会費8千円)

昭和百一年はジャズと映画と俳句のコラボ!

ジャズin全国大会 コンセプトは「あなたの俳句をジャズ

に」入賞句などを即興のジャズに

そして若松孝二監督門下・社会派の井上淳一氏の講演を

文化庁 / 毎日新聞・朝日新聞

□後援

読売新聞・中日新聞

【令和7年度計報】 野崎 妙子(愛知県) 1月 / 小南 千賀子(愛知県) 1月 / 堀田 忠村(三重県) 2月
 松本 修一(三重県) 3月 / 山田 哲夫(愛知県) 6月 / 井平 幸雄(愛知県) 11月 / 谷口 智子(愛知県) 10月

東海地区現代俳句協会役員一覧

名誉顧問	後藤 昌治	顧問	橋本 輝久	伊藤 政美
会長	中村 正幸	副会長	大西 健司	
	武藤 紀子(愛知担当)		武馬久仁裕(岐阜担当)	
	平賀 節代(三重担当)			
事務局長	松末 充裕	経理部長	小津 由美	
広報部長	前野 砥水	青年部長	松永みよこ	
// 副部長	亘 航希	若年部長	有本 仁政	
会計監査	今井 真子	理事	福林 弘子	中村 誠一
	村山 恭子		長町 誠司	大西 誠一
	森本 昭子		八木茂都子	
	ひらの浪子			
顧問	伊藤 政美	副会長	永井江美子	
評議員	武馬久仁裕		平賀 節代	大西 健司
	武藤 紀子		有本 仁政	小津 由美
	松末 充裕			福林 弘子
				松末 充裕

東海地区現代俳句協会会報 第八十六号

令和八年三月三十一日発行

発行者 大西 健司

編集者 前野 砥水

印刷 ヨサ美印刷

事務局長 松末 充裕

名古屋瑞穂区松月町一十二-二〇九